



輝かしい未来を担う新成人(白浜町成人式)

## CONTENTS

■ 平成29年第4回定例会	P.2~3
■ 一般質問	P.4~12
■ 決算審査特別委員会審査報告	P.13

■ 提出した意見書	P.14
■ 活動報告	P.15
■ 町議会・町議会議長の主な動き	P.16

## 平成28年度白浜町一般会計、 特別会計歳入歳出決算を認定

白浜町議会平成29年第4回（12月）定例会は、12月5日招集、16日間の会期で開催しました。当局から提案された案件は、専決処分3件、条例改正等9件、一般会計補正予算2件、特別会計補正予算3件、報告1件、その他の案件9件でした。閉会中の継続審査となっていた平成28年度白浜町一般会計、各特別会計歳入歳出決算認定9件は、委員会審査報告どおり意見を付して認定しました。定例会2日目、3日目には一般質問が行われ、9議員が登壇し、町長および教育長に質問をしました。

### □ 条例改正等

○ 白浜町会館及び集会所条例の一部を改正する条例

国土調査等により一部の白浜町会館の地番に変更が生じているため、関係規定を改正

○ 白浜町各種基金条例の一部を改正する条例

地域活性化事業基金を設置するため、関係規定を改正

○ 白浜町学童保育所設置条例の一部を改正する条例

白浜学童保育所の新築移転に伴い、関係規定を改正

○ 白浜町立体育館条例の一部を改正する条例

国土調査等により白浜町立体育館の地番に変更が生じているため、関係規定を改正

○ 白浜町立児童館条例の一部を改正する条例

国土調査等により白浜町立児童館の地番に変更が生じているため、関係規定を改正

○ 白浜町営住宅条例の一部を改正する条例

国土調査等により一部の白浜町営住宅の地番に変更が生じているため、関係規定を改正

○ 白浜町職員の給与等に関する条例及び白浜町一般職の任期付職員の採用等に関する条例の一部を改正する条例

人事院勧告による国家公務員の給与改定等及び地方公務員法の一部改正に伴い、関係規定を改正

○ 白浜町長等の給与等に関する条例及び白浜町議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例

特別職の給与額及び議会議員の期末手当額を改定するため、関係規定を改正

○ 白浜町農業委員会の委員及び農地利用最適化推進委員の定数に関する条例の制定

農業委員会等に関する法律の改正に伴い、白浜町農業委員会の委員及び農地利用最適化推進委員の定数を定める条例の制定

□補正予算

○平成29年度白浜町一般会計補正予算(第4号)

既定の歳入歳出予算の総額に1億6千万円を追加し、歳入歳出予算総額を115億810万円とする。

主な補正内容は次のとおりです。

(単位 万円未満四捨五入)

【総務費】

・本庁舎別棟解体撤去事業

435万円

・ふるさと白浜応援寄附金事業

1億2千740万円

・ITビジネスオフィス屋根改修事業

380万円

・地籍調査事業

△4千791万円

【民生費】

・障害者自立支援給付支払等システム改修事業

54万円

・障害児施設給付費等事業

2千600万円

・子ども、子育て支援システム改修事業

54万円

・保育園事業

772万円

【衛生費】

・予防接種事業

380万円

・第三天山源泉配湯事業

185万円

・崎の湯浴場屋根整備事業

70万円

【農林水産業費】

・有害鳥獣駆除奨励費補助事業

565万円

・大井堰魚道補修事業

63万円

・林道池の河線補修事業

228万円

【観光費】

・田辺、白浜共同プロモーション事業

38万円

・スポーツ合宿等誘致補助事業

350万円

・平草原公園照明設備整備事業

150万円

【土木費】

・道路維持補修事業

300万円

・町営住宅補修事業

100万円

・町営住宅用火災報知器購入事業

△200万円

【教育費】

・小学校教師用教科書等購入事業

120万円

・要、準要保護生徒就学援助事業

70万円

【災害復旧費】

・農林水産業施設災害復旧事業

209万円

・道路災害復旧事業

350万円

・その他公共公用施設災害復旧事業

40万円

○平成29年度白浜町一般会計補正予算(第5号)

既定の歳入歳出予算の総額に813万3千円を追加し、歳入歳出予算総額を115億1千623万3千円とする。

○平成29年度白浜町国民健康保険事業特別会計補正予算(第3号)

既定の歳入歳出予算の総額に2千430万円を追加し、歳入歳出予算総額を38億1千239万9千円とする。

○平成29年度白浜町後期高齢者医療特別会計補正予算(第2号)

既定の歳入歳出予算の総額に900万3千円を追加し、歳入歳出予算総額を5億8千449万8千円とする。

○平成29年度白浜町介護保険特別会計補正予算(第3号)

既定の歳入歳出予算の総額に86万1千円を追加し、歳入歳出予算総額を29億1千602万6千円とする。

□工事請負契約の一部変更

○堅田漁港物揚場整備工事

工事量の変更により、契約金額を2千162万9千80円増額し、1億6千683万4千円とする。

□富田共有財産組合委員の選任

次の方を同意しました。

(敬称略)

- ・溝口 耕太郎 (保呂)
- ・柏木 幸王 (富田)
- ・栗山 章道 (富田)
- ・野々田 憲市 (富田)



丸本 安高 議員  
（一問一答）

## ・ 原発から出る使用済核燃料の 中間貯蔵施設について

**問** 11月28日付の新聞報道によると、大飯原発3、4号機について、福井県知事が再稼動への同意を表明したとある。再稼動が進むと使用済核燃料が増えてくる。しかし報道によると関西電力の大飯、高浜、美浜原発は既に貯蔵プールの約7割が埋まっており、再稼動が進むとプールの余力がなくなっていくとある。

関西電力社長の岩根氏は、2018年には中間貯蔵施設の計画地点を福井県外に示すとし、世耕経済産業大臣も国の関与を約束したとある。関西電力のホームページには、中間貯蔵施設の取り組みについて、早期設置が喫緊の経営課題であり、立地に向け鋭意取り組んでいるとある。

中間貯蔵施設の設置には、国も肩入れするのとこのことである。国と関西電力を相手に話し合いのテーブルにつけば、条件が出てく

る。話し合いをして、受け入れ拒否を貫けるのか。受け入れる考えがないのであれば、話し合いしないと表明したほうが、町民は理解しやすいと思うがどうか。

**答** 中間貯蔵施設の受け入れについて、現在、コンタクトや申し入れはないのでコメントをすることができない。

日本における使用済核燃

料の現状は、どこかに作っ  
ていかなければならないと  
いう状況にあることは現実  
問題として認識している。  
また設置に関しては、国や  
電力会社が責任を持って丁  
寧に時間をかけて、国民の  
理解を得たうえで進めてい  
くことが必要であるとも考  
えている。

いずれにしても、この問  
題は大変大きな課題であ  
る。町政にかかわる重要な  
案件ということは十分承知  
しているので、国や県、ま  
たは電力会社からコンタク  
トがあった場合、首長の立  
場として話を聞かないとい  
うわけにはいかないと考え  
ている。

※このほか、丸本議員  
は会館、集会所の消防  
設備について質問しま  
した。



（後世に残したい日置川の自然）



たまき ちぢま 議員  
(一問一答)

- ・町有地の利活用について
- ・大学生ゼミ誘致について
- ・学童保育について

**問** 町が所有する土地、山林等価値を高めていくことが大切である。雄大な太平洋が望める土地や温泉が利用できる土地等、企業が投資したくなるような場所を

全国に発信し、価値を高めていく取り組みが求められる。フラワールインに接する土地は、道の駅として農産品等の販売や農業ハウスを隣接した観光農園、駐車場として活用してはどうか。また、災害時は備蓄倉庫や避難場所としても使用できると思うがどうか。

**答** 当該町有地は、高速道路から直結するフラワールイン線への玄関口となり、さまざまな利活用が想定できる大変有効な土地だと考えている。仮置きしている

残土の搬出や整地にももう少し時間がかかるので、利活用については、幅広く町民の意見を聞きながら有効活用していきたい。

**問** 若者が白浜を訪れ、白浜で学ぶ従来と違ったまちづくりを目指すなかで、京都大学や近畿大学の研究所やIT企業が進出する白浜に、学生が学びを求める構想をもって、大学生のゼミ等を積極的に誘致してはどうか。

**答** 現在、大学のゼミ誘致の取り組みは、桃山学院大



(雄大な太平洋を望める町有地)

学を中心にしたものとなっているが、今後は連携協定を進める予定である近畿大学をはじめ、町に研究所のある京都大学や県内の大学、高校も視野に入れた取り組みを進めていきたい。

**問** 現在、学童保育の需要が高まっていることに対応し、西富田小学校や白浜第一小学校に比較的大きな学

童保育所ができたが、運用面において、児童の将来の触発をはかる取り組みを考

えてはどうか。

**答** 学童保育事業の目指すところである遊びを中心とした活動を通じ、子どもが心身ともに健やかに育つことを支援し、安心安全に過ごせる居場所の提供を第一に、議員から提言のあった地域との交流、英語やプログラミング等も今後研究していきたい。



(需要が高まる学童保育)

# ・旧空港跡地利用と現空港の民営化 ・森林、林業政策



くすもと たかのり  
楠本 隆典 議員  
(総括)

**問** 旧空港跡地利用について、県との話し合いはできているか。

**答** 現在、県との間で具体的な利用方法等について協議をしている事案はない。県内唯一の空港を有する町として、具体的な活用方法を検討しなければならない。

**問** 被災後の復興計画を市町に求められているが、旧空港跡地の利用や近隣市町との連携した復興計画の拠点を県に具申すべきではないか。



(民営化が進められる南紀白浜空港)

**答** 旧空港跡地は、覚書により県の広域防災拠点に位置づけられているので、町も防災拠点の円滑な運営に協力していく。

**問** 民営化説明会に県内外の23社から参加があったと聞く。町の立ち位置を伺う。

**答** 民営化について県が取り組みを進めるにあたり、当初より協議してきた。空港存続に関わる大きな問題であり、将来的なリスクへの対応等意見してきた。

**問** 近隣市町とも綿密な連携をとり、民営化の利点を最大限生かすべきであるが、見解を伺う。

**答** 空港の民営化や跡地利用は、近隣市町との連携が非常に重要だと認識している。町にとって経済的にも将来的にも発展するののかという視点で進めていきたい。

**問** 森林は木材を生産する「経済林」の機能だけでなく、地球温暖化の防止等、「環境林」としての機能もあるため、適正な管理が求められる。富田共有財産の地上権設定者の41件について、補助金を利用した切り捨て間伐はされているか。

**答** 平成27年度にも間伐を実施したが、今後も県の補助制度を有効に活用しながら、適正な森林管理に努めていきたい。

**問** 水源の森の管理状況の把握、植林の管理はされているか。

**答** 植林部分は、分収造林契約に基づき中辺路町森林組合が定期的に巡回し、状況把握している。また「水源の森」であることを知らせる看板や草木採取禁止の看板を設置する等、管理に努めている。

**問** 議会も森林環境税について意見書を可決したが、政府の新税に先行して2019年より地方に数百億円を配分すると聞く。また、「森林バンク」制度も同年より始まるので、計画性を持っていくべきであるがどうか。

**答** 国においても検討中の事項が多いことから、国や県、ほかの市町村の動向にも注視しながら、計画性をもって進める必要がある。



(適正な管理が求められる水源の森)



みなみ かつや  
南 勝弥 議員  
(一問一答)

## ・住宅地に隣接する太陽光発電の設置について

**問** 小規模太陽光発電（1千㎡以下）は、基本的には届出や設置等の規制、近隣の同意も必要なしと平成29年6月議会で聞いた。しかし、危惧されたように最近住宅に隣接して太陽光パネルが設置されている。届出もなく、付近住民への説明もなしで突然工事が始まり完成しているところもある。太陽光発電に関する

条例を早く制定すべきだと提言したが、その後の対応はどうか。

**答** 住民や設置事業所等から問い合わせのあった場合は、国のガイドラインや県の太陽光発電施設の設置に関する景観ガイドラインを示し、理解が得られるよう対応している。



(住宅街に設置された太陽光発電)

**問** 町内で売電目的での太陽光発電は何力所あるのか。またその面積はどのくらいか。設置者名等を町は把握しているのか。

**答** 小型の太陽光発電施設は届出義務がなく、町内の状況を把握できていないのが現状である。ただ、平成29年4月に県から太陽光発電施設の設置に関する景観ガイドラインが示され、1千㎡以上のパネルを設置する場合、届出の対象施設となっている。4月以降の届出件数はないが、今後対象施設は、把握できるものと考えている。

**問** 風致地区という名で景観を守っている面もある。パネル設置等は届出も必要なく、建築物でもないの、このままだと地区内の空き地に設置が可能となり、景観が損なわれないか。

**答** 風致地区内では宅地造成等、土地の形質の変更や樹木の伐採がともなう場合は許可申請が必要となるが、空き地等の更地に高さ13m、築造面積1千㎡を超えるものであれば設置できる。

**問** 反射光で住宅が照らされ、夏には灼熱地獄になったり、住宅環境が悪化したところもある。これで町のスローガンの「住んでよいまち、訪れて楽しいふれあいのまち」と言えるのか。

**答** 太陽光発電施設には、メリット、デメリット双方があるが、まちづくりに対しても重要なものであると認識している。課題を最小限にした取り組みが求められているので、町のまちづくりに沿ったものとなるよう取り組みを進めていきたい。



ながの 長野 議員  
そうち 荘一  
(一問一答)

## ・高齢者の交通安全対策について ・安心、安全なまちづくりについて

**問** 運転免許証を自主返納した高齢者に対して、生活支援策を講じているが、町の支援制度について伺う。

**答** 運転免許返納者への支援制度は、日置川地域でのコミュニティバスにおいて、運賃の割引を行っている。また、町内に住んでいる65歳以上の方が路線バスを利用する場合、優待証の提示で運賃の半額で利用できる白浜町高齢者バス運賃割引制度がある。

**問** 返納後の生活支援措置の拡充が必要であると考えられているか。

**答** 平成30年度から始まる生活支援体制整備事業のなかで、買物支援、移動支援を含めた生活支援をボランティアの方や地域と行政が一体となって提供できるように体制づくりを進めたい。

**問** 県道日置川大塔線の宇津木橋から玉伝間等は、未整備区間が多く残っている。この未整備区間は、県道日置川大塔線改修促進協議会をはじめとする地元の方と協議をし、交通の支障となる箇所を何力所かに絞り、計画的に方向性を見出して県当局に整備を要望してはどうか。

**答** 県道日置川大塔線の改修については、議員指摘の未整備区間を含め、日置川区長会や県道日置川大塔線改修促進協議会と十分検討を行い、県に対し強く要望していく。

**問** 県のため池の一斉点検で、町の点検箇所は何力所、防災重点ため池は何力所、詳細な調査、優先度が高い防災重点は何力所あるのか。その名称と改修計画について伺う。

**答** 20カ所実施、11カ所が防災重点、内7カ所が詳細な調査の優先度が高いため池である。現在、才野碓池と堅田大池の改修事業が進んでおり、残りも県ため池改修加速化計画の年次計画に位置づけられている。

**問** 津波避難困難地域11地区に対し、具体的にどのような取り組みをされたのか。また、今後の取り組みを地域ごとに伺う。

**答** 11地区で避難訓練を実施したなかで常に正常な状況で避難ができるとは限ら

ず、避難タワー等とは別に各地域の対策が必要であり、協議の整った地域から町でできる整備を進めていきたい。

**問** 現在設置している富田津波避難タワーについて、今後どのようにしていくのか伺う。

**答** 南海トラフ巨大地震においては、富田津波避難タワーには増設や補強等の対応が必要となるため、地元の自主防災組織の方と協議しながら対応を検討していきたい。



(富田地区にある津波避難タワー)





ふるくぼ けいぞう 議員  
古久保 恵三 (一問一答)

## ・ 第三天山源泉「温泉に関する契約」の 新たな契約締結について ・ 請負業者の格付に伴う工事指名 競争入札執行について

**問** もともと第三天山源泉は、温泉使用目的で掘削したのではなく、地熱上昇による危険回避調査目的で超法規的な措置として掘削が認められた源泉である。当局はこれを有効利用するとして、一ホテルに配湯しようとしている。現在の取り組みと新しい契約はなされているのか伺う。

**答** 新たな契約書は、昭和43年に契約したもののから内容を引き継ぐもの、変更するものがあり、現在、町、ホテル双方で協議をおこなひ、内容的にお互いがおおむね了承している。

**問** 更新しようとしている契約内容のなかで、源泉および付属設備配管一式、維持管理補修ならびに泉源復活に必要な工事は、町が責任とともに費用も負担するところがあるが、一ホテルに配湯するためにだけ、多額の税

金を支出しなければならぬのか。考えを伺う。

**答** 今までは、ホテル側が維持管理をおこなってきたが、源泉の所有者が町である以上、責任を持って維持管理をする。費用はかかるが、それが最善の選択である。

**問** 県への申請では温泉使用量が約40立方メートルであるが、更新契約では14.5立法メートルとなり、大幅に収入が減っている。支

出では管理委託料、配湯のための旧設備機器の使用料、設備機器設置用地の借地料等、毎年赤字の計算となっているが、将来ホテルが存在する限り町民の負担が継続すると思うがどうか。

**答** あくまでも当初の申請であり、ホテルの浴槽の容量が減ることに県からも何ら指摘はない。当初の温泉使用料より減るが、双方で協議したうえで、決定したものである。

**問** 県知事は独占禁止法の疑いをかけられないためにも、指名競争入札はしないほうがいい、建設業界のためにもいいと言っているが、町はどのような考えか。

**答** 指名競争入札による調達は、制度として認められており、地域の活性化の観点から地元業者が受注し、地域経済に貢献することも求められるので、地元業者に受注機会を与える必要があると考えている。

**問** 町では、業種においてはランク付けされているが、入札執行調書の結果を見れば、予定価格に対する業者選定が一定していないのはなぜか。

**答** 各業者のその時点での請負工事量やその工事の進捗状況、完成能力等、その時の状況を判断したうえで選定している。



(町有源泉「第三天山」)

## ・安全で豊かな町づくりの中で



みくら けんじ 議員  
(一問一答)

**問** 津波避難困難地区である日置区の日の出、本町、浜町地区には緊急避難場所がない。避難タワーではなく、正光寺前の消防車庫、区民集会所を避難ビルに建て替えてはどうか。また、日の出地区の避難所は、国道まで避難道路を新設してはどうか。

**答** 日置区の避難困難を解消する方策として、津波避

難タワー2基を建設する要望を受けている。今後も協議を深め、用地の確保や施設のあり方等を検討していきたい。

**問** 笠甫、志原、矢田地区の裏山への避難道路について、夜間の避難も考えた整備、安全性はどうか。また、大古瀬田谷と秋葉山への避難道の水路と接してある箇所についてもどうか。

**答** 津波避難困難地域の解消に向けて、どういった対策を必要とするのかという部分について、地元との協議のなかで、町でできることを協議が整ったところから進めていきたい。

**問** 倒壊した家屋は瓦礫等となるが、仮設置場の確保の考えはどうか。

**答** 津波避難対策を優先して取り組んでいる。復旧復興計画も早期に取り組んでいかなければならない。瓦礫の処理、仮置きの方法も復興計画のなかで検討していきたい。

ない。候補地のひとつに旧田野井小グラウンドはどうか。高上げと周辺の土地を買収して、平素はスポーツ合宿等で活用できる施設として、災害時は仮設住宅用地とする計画を提言するがどうか。

**答** 仮設住宅の候補地は、県に町内の仮設住宅の候補地と確保できる戸数1591戸を報告している。日置川地域においても候補地を選定しておくべきであり、候補地として適切かどうかは今後各課で協議していく。実際に起きたときには何らかの形で対応しなければならぬので、復興計画についても、早急に取り組んでいかなければならない。

※このほか、三倉議員は住居表示について、旧空港跡地利用について質問しました。



(避難ビル建設の提案場所“日置区浜町”)

**問** 地震・津波にて家屋が倒壊し、被災人口は大多数になると推測されるなか、被災者の仮眠場所の確保、対応についての考えはどうか。また、地震・津波災害対策計画のなかで日置川地域における候補地の記載は



みずかみ くみこ 議員  
水上 久美子 (一問一答)

- ・ 児童生徒の問題行動や不登校について
- ・ 公共施設の老朽化、整備と耐震化、町の活性化に繋がる活用についての状況について

**問** 児童生徒の問題行動や不登校の低年齢化が心配である。児童生徒が1人で悩まないようなサポートと成果はどうか。

**答** 各学校で年3回以上いじめアンケートを実施し、気になる回答をした児童生徒には個別に話を聞き、必要に応じて家庭と連携し、把握に取り組んでいる。

**問** いじめ被害児童生徒の把握やケアはもちろんだが、加害児童生徒にも何らかの措置が必要である。再発を防ぐ心のケアはできているか。

**答** 学校だけでなくスクールカウンセラーや心の教室相談員、青少年センター等、関係機関とも連携して心のケアに努めている。

**問** 保護者のケアや教員の支援も必要だがどうか。

**答** スクールカウンセラー等と結びつけて、一緒に心を和らげてもらい、心配事を少しでもなくしてもらえように取り組んでいる。

**問** 公共施設の老朽化と耐震化等、整備年次計画での投資額は担保されるのか。

**答** 公共施設の老朽化等への投資額は、公共施設等マネジメント基本方針に基づく取り組み等により、財政的な課題の解消を図ってきたい。

**問** 不特定多数の人が利用する公民館の耐震化はできているのか。

**答** 日置川拠点公民館は昭和50年建築で42年が経過している。中央公民館は昭和56年以降に建築したもので耐震性は有している。

**問** 新耐震基準に満たない



(老朽化と耐震未整備の湯崎保育園)

湯崎保育園では、園舎の老朽化、傾き、進入道路、駐車問題等施設環境の不備がある。数年質問している移転や幼児の安心安全等をどう考えているのか。

危険箇所は優先順位1位で取り組まないと必ず来ると専門家が公言している巨大地震の不安もあるなかで大切な幼児の命を守れない。現状を知りながらこの

ままにはできないのではないか。命の問題である。保護者からも大変不安だとの意見が出ている。いつまでも先送りにできない問題だがどうか。

**答** 施設の老朽化による保育環境の悪化は十分に認識している。湯崎保育園のあり方、整備方法は今後速やかに抜本的な対策を検討し、園児の安心安全につながる対策を講じたい。

**問** 公共施設、体育施設の大会誘致等、どのようなことができたのか。町の活性化に繋がる活用と、はがき作戦を提言する。

**答** 誘致活動は、町に適した大会誘致、スポーツ合宿誘致をおこなっている。11月にも首都圏の旅行エージェンツにPR活動もした。今後も誘致に力をいれていきたい。



ひろはたとしお 議員  
廣畑 敏雄  
(一問一答)

- ・ 保育園園舎について
- ・ 防災無線のデジタル化について
- ・ 住民相談の取り組みについて

**問** 約40年前に建設された湯崎保育園の園舎の現状と耐震診断についての認識はどうか。

**答** 園舎自体の老朽化対策、また近い将来発生が予想されている東海・東南海・南海地震に備えるためにも、今後速やかに抜本的な対策を講じる必要がある。また、耐震性は低い状態である。

**問** 「児童は人として尊ばれる。社会の一員として重んぜられる。よい環境の中で育てられる」の児童憲章の趣旨に則り、園児たちの安心安全をどう守っていくのか。また、以前から床は波打ち、平成28年11月の震度3の地震では、トイレにひびが入ったと聞く。どう安心安全を守るのか。

**答** 湯崎保育園のあり方や整備方法、さらには財源問題等、さまざまな課題があるが、現在の保育環境を少しでも早く改善することが園児や保育に携わる職員の安心安全につながるものと考えている。

**問** ほかの保育園、幼稚園とあまりにも違う。建て替え、移転も必要。また、今できることは何か問う。

**答** 園の建て替え、統合を含めた検討は、速やかに方向性を協議し、床の傾き等の園舎の修繕は、簡易なものであれば、早い段階で対応していきたい。

**問** 防災無線のデジタル化の事業と戸別受信機の設置について今後の取り組みはどうか。

**答** 防災無線のデジタル化は平成30年度から平成32年度までの3カ年をかけて整備を予定している。戸別受

信機については、希望する住民の方に整備していく方針で検討している。

**問** 生活困窮者のさまざまな相談について、どのように対応しているのか。また、税等の複合的に入り組んだ状況があると思うが、情報の共有で総合的な取り組みとして支援すべきと考えるがどうか。

**答** 多問題世帯においては、単一の課だけで問題を解決するのが困難なため、税務課や民生課、教育委員会等、関係する課が相互に可能な限り必要な情報を共有しながら、連携して支援している。



(建設後約40年が経過した湯崎保育園)

# 決算審査特別委員会審査報告

決算審査特別委員会は、平成28年度一般会計および特別会計9件の決算を審査するため、10月4日から11日までの期間で、4日間にわたり開催しました。以下に、総括意見を掲載します。

## 決算審査特別委員会審査報告書 総括意見

平成28年度決算は、各種会計において、「新町まちづくり計画」、「第1次白浜町長期総合計画」をもとに、合併特例債、過疎対策事業債等を活用し、教育施設、観光施設、漁港整備、産業振興、地域振興等々の諸施策に対して、取り組んでいるものである。今後の行政施策の取り組みにおいては、第1次白浜町長期総合計画をもとに、各種施策が展開されるであろうが、その財源が町債に委ねるところが多いので、地域バランスや事業の優先順位などを十分考慮しながら、中長期的な見通しを立てて行財政の執行に取り組まれない。

歳入においては、平成28年度の我が国の経済状況は、雇用・所得環境が改善し、緩やかな回復基調が続く、雇用者報酬は増加し企業収益も高水準で推移するなど、所得面では改善が進んでいると言われているが、地方においては、少子・高齢化や過疎化、本格的な人口減少社会が到来し、今後とも厳しい経済財政状況が予想されるため、将来を見据えた持続可能な財政構築が望まれるところである。町税、国民健康保険税、各種使用料、手数料等の未収金については、町財政の根幹である自主財源の低下を招くものであり、収納に対しては各課の連携を密にして積極的な滞納処分を実施するなど、財源の確保と負担の公平性の観点からも、一層の収納対策に取り組まれない。

歳出においては、財政の深刻度を示す財政健全化比率は、それぞれ前年度決算と同程度であるが、財政構造の弾力性を判断するための指標である経常収支比率は、前年度決算より2.9%上昇し、平成28年度決算では93.0%となり、依然として財政構造の硬直化が見られることから、今後も厳しい財政運営が続くと予想される。行政改革により財政健全化プランや職員定員適正化計画など行政の効率化に取り組んでいるところであるが、引き続き取り組みをすべきである。

予算の執行にあたり、諸般の事情により多額の予算が繰越されているのが見受けられるが、単年度において予算執行ができるよう計画的に取り組むを行い、事業等を完了されたい。各種団体等への補助及び助成金については、補助基準の適正化に努めているが、各種団体の決算状況を検証するとともに、次年度への活動目標に基づき、補助額の見直しを行うなど、事業活動が活発化されるよう指導されたい。各課における不用額については、入札差金等を除き費用対効果が十分発揮されるよう、適正な予算執行に取り組まれない。また予算の積算にあたっては、十分精査されたい。

決算審査を行う意義は、「行政効果の客観的判断と、今後の改善や反省事項の把握と活用」である。当委員会で出された意見を真摯に受け止め、合併10年余りの経過を踏まえ、次年度予算の編成、執行に活かされたい。また、今後とも、町民の福祉の向上や高い行政サービスの提供に努め、施策・事業の計画的推進、重点化及び効果的な財源配分に努められたい。

【委員長】 堀 匠      【副委員長】 楠本 隆典

【委員】 辻 成紀      西尾 智朗      古久保 恵三      丸本 安高

## ▷▷ 提出した意見書

定例会5日目に、意見書の委員会提案があり、発委第8号「道路整備予算の確保及び道路整備に係る補助率の嵩上げ措置の継続を求める意見書」は全会一致で可決し、関係機関へ提出しました。

発委第8号 道路整備予算の確保及び道路整備に係る補助率の嵩上げ措置の継続を求める意見書

提出者 白浜町観光建設農林常任委員長 水上 久美子

採決結果 **可 決** 全会一致

### 道路整備予算の確保及び道路整備に係る補助率の嵩上げ措置の継続を求める意見書

地方の道路は、地域経済の活性化や住民の安全で安心な生活を確保するための最も基本的な社会基盤である。

特に自動車交通の依存度の高い紀伊半島南部に位置する白浜町においては、幹線道路である紀勢自動車道、国道42号、県道田辺白浜線、県道白浜温泉線、高速道路や国道と中山間地域を結ぶ県道白浜久木線や県道日置川大塔線、また、現在本町で進めている南紀白浜空港や南紀白浜ICへのアクセスとなる町道空港湯崎線などは、早期完成を目指し重点的かつ効率的に道路整備を進めることが急務となっている。

活力ある地域づくりや豊かな暮らしづくりを推進するためには、国民共有の社会基盤でもある道路を計画的に整備、維持することが極めて重要であり、これを支える十分な財源の確保が必要である。

これまで、道路事業においては「道路整備事業に係る国の財政上の特別措置に関する法律」（以下、「道路財特法」という。）の規定により、平成29年度までの時限措置として補助率が嵩上げされてきたが、これを廃止することにより、道路事業費の縮減や地方財政負担の増加をもたらし、道路整備の遅延を招くことでその影響は深刻かつ重大なものになる。

よって、国においては、地方が真に必要とする道路整備と今後増大する道路の維持管理を計画的に進めるように、下記の措置が講じられるよう強く要望する。

#### 記

- 1 地方創生の実現に向け、道路整備に必要な予算を確保すること。
- 2 道路財特法の補助率等の嵩上げ措置については、平成30年度以降も継続・拡充すること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成29年12月20日

和歌山県白浜町議会

【提出先】 内閣総理大臣 内閣官房長官 総務大臣 財務大臣 国土交通大臣  
衆議院議長 参議院議長

# 活

# 動

# 報

# 告

## 決算審査特別委員会現地視察

平成29年10月11日、決算審査特別委員会は、平成28年度に完成した白浜町消防団第7分団（才野）車庫、白浜駅前駐輪場等、4カ所の現地視察を行いました。

高台に移転した第7分団車庫では、消防本部の職員から移転の経緯や施設の概要について説明を受けました。災害時には、地域の防災拠点となる施設であることから、委員会さながらの活発な質疑が行われました。



(白浜町消防団第7分団車庫)

## 和歌山県町村議会委員長・副委員長研修会



(自治会館での研修の様子)

平成29年11月13日、和歌山県自治会館（和歌山市）において、委員長・副委員長研修会が行われ、白浜町議会からは6人の議員が参加しました。

研修会では、全国町村議会議長会議事調査部の小西正太氏を講師に迎え、「委員会審査の現状と課題」というテーマで、具体的な事例を交えながらの説明を受け、委員会のあり方、役割等を考える研修となりました。

## 田辺市および周辺町議会研修会

平成29年11月16日、上富田文化会館において、田辺市および周辺町議会研修会があり、全議員が参加しました。

福知山大学副学長で元逗子市長の富野暉一郎氏を講師に迎え、「人口減少時代における議員力とは“問われる政策力”」というテーマで研修を受けました。人口減少が続く今日において求められる地方議員の力、政策実現力等を再考する研修会となりました。



(上富田文化会館での研修の様子)

# 町議会・町議会議長の主な動き (10月1日～12月31日)

10月1日	第51回町民体育大会
4日	決算審査特別委員会第1日
5日	決算審査特別委員会第2日
6日	決算審査特別委員会第3日
10日	和歌山県高規格幹線道路建設促進委員会通常総会
11日	茨城県結城市議会産業建設常任委員行政視察来庁
12日	決算審査特別委員会第4日
21日	議会広報特別委員会 しら・はぐフェスティバル
26日	大分県別府市議会視察来庁
31日	公立紀南病院組合議会定例会
11月2日	紀南地方老人福祉・児童福祉施設組合臨時議会 大辺路衛生施設組合議会 人権を大切にす地域づくり講演会
9日	富田川衛生施設組合議会
10日	田辺周辺広域市町村圏組合議会
13日	大阪府泉佐野市議会視察来庁 県町村議会議長会委員長・副委員長研修会(和歌山市)
14日	富田川治水組合議会 公立紀南病院組合議会決算委員会 全国過疎地域自立促進連盟定期総会(東京都)

## 議会開催予定のお知らせ

次回の定例会は

**2月6日(火)から  
2月23日(金)**

まで開催予定です。

詳しい日程等については、議会事務局までお問い合わせ下さい。  
(TEL 43-6591)

12月2日	第6回暴力団追放白浜町民大会
5日	第4回定例会(第1日)
14日	第4回定例会(第2日)
15日	第4回定例会(第3日)
19日	第4回定例会(第4日)
20日	第4回定例会(第5日)
26日	公立紀南病院組合議会定例会
29日	岩手県北上市議会視察来庁
28日	議会運営委員会
22日	第61回議長全国大会(東京都)
20日	地方自治法70周年記念式典
17日	全員協議会
16日	副議長会総会・研修会

## 編集後記

新しい年の松の内も過ぎ、節分を迎え、大変厳しい寒さが続いています。

新しい年に期待し、明るい気分となりますが、世界が平穏であることを祈念します。

また、白浜温泉の繁栄が長く続くために今何をするか、どう舵を切るか難しいときであります。早く実行することが大切です。

観光、農林水産、教育等において、適宜有効な事業を実行するため、われわれ議員も活動してまいります。

### 議会広報特別委員会

委員長	玉置 一
副委員長	堀 匠
委員	西尾 智朗
委員	丸本 安高
委員	廣畑 敏雄
委員	南 勝弥